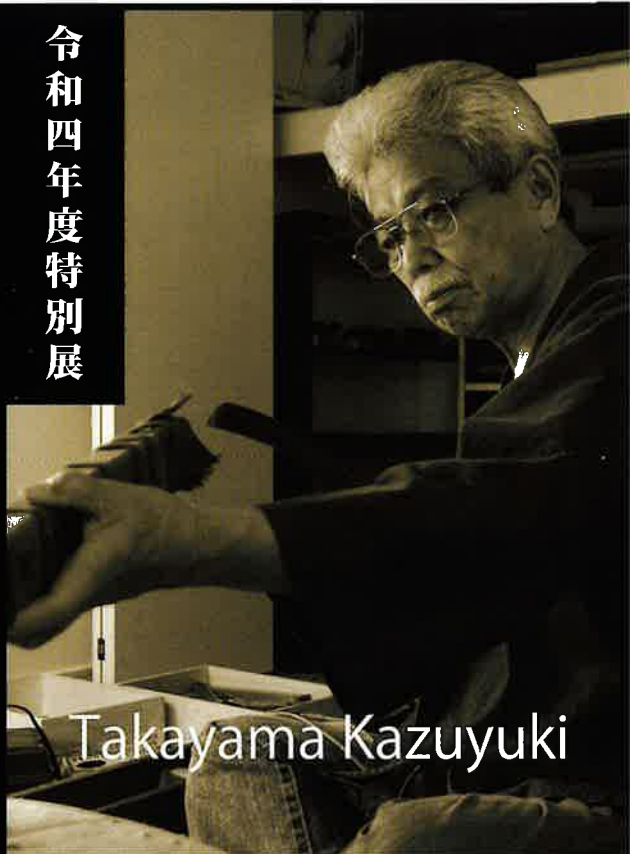


令和四年度特別展



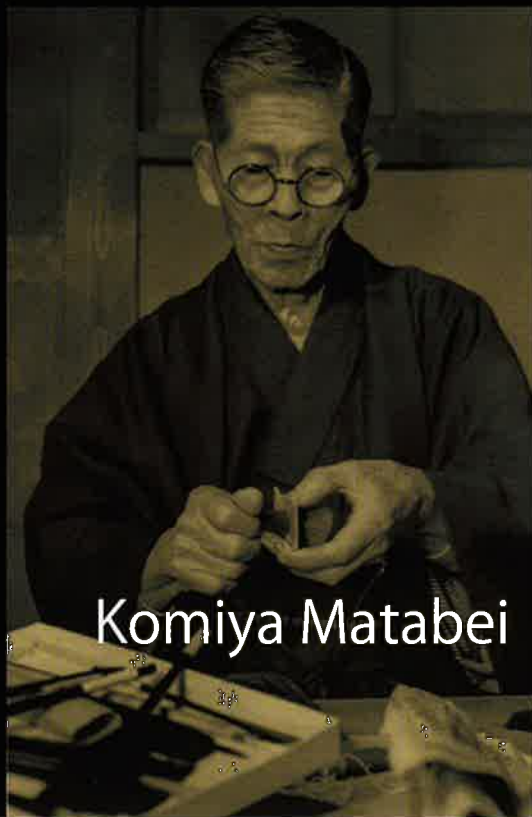
Takayama Kazuyuki

目黒の名工

千代鶴是秀 × 小宮又兵衛 × 高山一之



Chiyozuru Korehide



Komiya Matabei

2022 11.3 Thu ▶ 12.11 Sun

【休館日】 月曜日

【開館時間】 午前9時30分から午後5時まで

【会場】 目黒区めぐろ歴史資料館 企画展示室

【交通案内】

東急東横線・東京メトロ日比谷線「中目黒駅」から徒歩12分

東急バス 渋71・恵32系統（駒沢通り）「正覚寺前」から徒歩10分

渋41・黒09系統（山手通り）「目黒警察署前」から徒歩5分

※めぐろ歴史資料館には、一般駐車場がありません。

公共交通機関でお越しください。（ただし障害者用の駐車場があります。）

入館無料

目黒区めぐろ歴史資料館

MEGURO HISTORY MUSEUM

所在地：〒153-0061東京都目黒区中目黒三丁目6番10号

TEL: 03-3715-1321 / FAX: 03-3715-1325



名工の紹介と初公開作品

千代鶴是秀（明治7年〈1874年〉～昭和32年〈1957年〉）

大工道具鍛冶の名工。大正9年〈1920〉下渋谷から上目黒宿山へ転居、工房「九三房」を構える。刀匠の家に生まれ、11歳の時に鍛冶修行に入るが、時代の変容に伴い刀匠から大工道具鍛冶となる。刀匠から受け継いだ崇高な精神性を持ち合わせ生み出された大工道具は、本来の消耗品としての道具に留まらず、芸術の域に達している。大工道具鍛冶業界や大工や木工技術者などの使用者の間では「不世出の鍛冶」と語り継がれている。



ろくぶしのぎおおつきのみくしんりょう
『六分鎬大突鑿く神嶺』
(個人蔵)

小宮又兵衛（明治8年〈1875年〉～昭和34年〈1959年〉）

蒔絵筆製作の名工。終戦後、中目黒（現在の目黒区祐天寺）に工房を構える。12歳前後で父に師事して、亡くなるまで約75年、蒔絵筆製作に従事していた。昭和32年〈1957〉、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」に認定される。小宮が調製した「漆芸用具製作技術記録」は東京国立博物館で所蔵され、希少となった漆芸道具の重要な記録となっている。



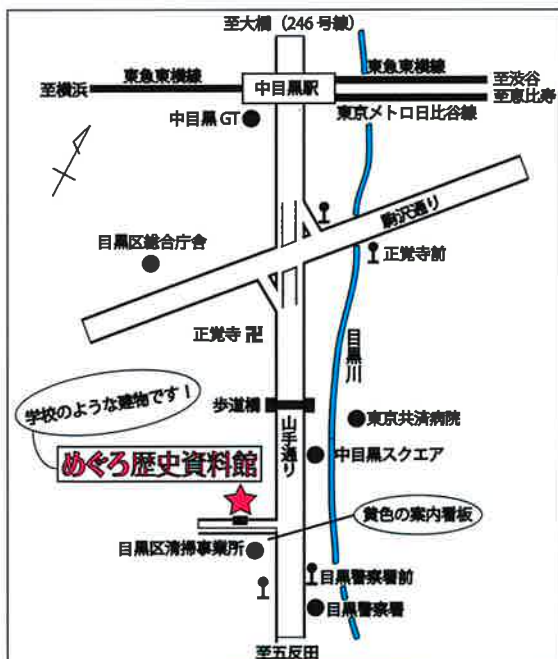
『蒔絵筆製作道具一式』の一部「蒔絵筆見本」
(当館蔵)

高山一之（昭和15年〈1940年〉～ ）

現在、目黒区内で活躍中の刀装（鞘）製作修理の名工。昭和15年に生まれ、5歳の時に目黒区に転居。大学卒業後の鞘師であった父に師事。宮内庁や有名社寺からの依頼で、国宝・重要文化財など刀剣の刀装の修理・復元、白鞘の制作を行ってきた。その名声は国内だけに留まらず大英博物館・メトロポリタン美術館などの海外の著名な博物館・美術館からも依頼を受けてきた。平成30年〈2018〉国の選定保存技術「刀装（鞘）製作修理」保持者に認定される。令和2年〈2020〉旭日双光章を叙勲。



きんひょうもんまさえうるしめりあいくちおおこがたなこしらえ
『金豹紋蒔絵漆塗合口大小刀拵』
(作家蔵)



関連事業

特別展「目黒の名工 千代鶴是秀 × 小宮又兵衛 × 高山一之」記念講演会

日時：令和4年11月26日（土）13：00～

場所：めぐろ学校サポートセンター第1研修室

（※めぐろ歴史資料館と同じ建物です）

講師：高山一之〈国の選定保存技術保持者「刀装（鞘）製作修理」〉

土田昇〈(有)土田刃物店 店主「千代鶴是秀研究の第一人者」〉

当館学芸員「当館蔵 小宮又兵衛蒔絵筆製作道具について」

定員：40名（応募多数の場合は抽選）

申込方法：①氏名（ふりがな）、②郵便番号・住所、③電話番号を記入して、

ハガキ・FAX・電子申請のいずれかでお申し込みください。

応募〆切：11月3日（木）必着

お問い合わせ：めぐろ歴史資料館

電話：03-3715-3571 FAX：03-3715-1325

〒153-0061 東京都目黒区中目黒3丁目6番10号

